

共催シンポジウム・共催セミナー プログラム

【企画趣旨・ねらい】

我が国の自殺率は深刻な状況にあり、自殺者の多くがうつ病などの精神疾患を抱えていると言われている。自殺者数は1998年には32,863人に達し、その後も3万人台で推移していたが、2010年には自殺者数は減少に転じ、2019年には20,169人となり統計開始以降最少となった。その後も2023年に至るまで21,000人台で自殺者数は推移している。一方で年齢別にみると、令和2年以降、「10～19歳」で上昇傾向が続いており、2023年に過去最多と同水準で推移している。10代の若者の自殺対策として、2022年に第4次「自殺総合対策大綱」が閣議決定され、翌2023年には「こどもの自殺対策緊急強化プラン」が取りまとめられたことで、若者の自殺対策が推進されている。本共催セミナーでは、うつ病/自殺予防を取り巻く諸問題をテーマに、思春期の自殺予防、自殺・メンタルヘルス報道とメディア表現についての講演と総合討論を行い、現在の課題、またこれからの対策について考える。

共催 ヴィアトリス製薬合同会社
座長 河西 千秋 札幌医科大学
大塚 耕太郎 岩手医科大学

ChS1-1 思春期の自殺予防

衛藤 暢明 福岡大学医学部精神医学教室

ChS1-2 自殺・メンタルヘルス報道とメディア表現

太刀川 弘和 筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学

共催シンポジウム 2 3月14日(金) 13:20～15:00 第4会場(大ホールA)**当事者・ご家族向けの疾患教育・啓発資材のあるべき姿****【企画趣旨・ねらい】**

近年、精神科医療領域において共同意思決定 SDM (Shared decision making) が着目されている。一方で精神疾患の患者さんは思考能力や判断能力が落ちていることがある。医師の話聞く、今の状態を的確に伝える、適切な選択をするなど困難に感じるという患者さんも存在する。当事者の力を引き出すサポートをするツール、「意思決定」を「支援」するツールが求められている。共通の指標、共通言語があることでコミュニケーションを円滑にし、視覚化・指標化することで共通の治療ゴールを目指すことができる。また、SDMを行うことで当事者は医療に参加しているという意識にも繋がる。このシンポジウムでは当事者・ご家族向けの疾患教育・啓発資材のあるべき姿について、①学会と当事者が作る②企業と当事者が作る③当事者の立場からをテーマとして取り上げる。

共催 大塚製薬株式会社
座長 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

テーマⅠ 学会と当事者が作る

ChS2-1 うつ病の特徴を知って治療法を一緒に選ぶための手引き - Decision Aid for Depression Treatment

青木 裕見 聖路加国際大学大学院看護学研究科

ChS2-2 「こころとからだのモニタリングシート」で目指す医療

櫻井 準 杏林大学医学部精神神経科学教室

テーマⅡ 企業と当事者が作る

ChS2-3 ユーザーが腑に落ちる資材の在り方

肥田 裕久 医療法人社団宙麦会ひだクリニック

テーマⅢ 当事者の立場から

ChS2-4 疾患教育・啓発資材について当事者が感じること

ゆま ReOPA (うつ病や生きづらさで苦しんでいる方の自助グループ)

大喜田 聡 株式会社 MARS ピアスタッフ

ランチョンセミナー 1 3月13日(木) 11:50~12:40 第1会場(メインホールA)

共催 武田薬品工業株式会社 / ルンドベック・ジャパン株式会社
座長 鈴木 映二 東北医科薬科大学医学部精神科学教室

LS1 リカバリーを目指すうつ病治療戦略 -Decision Aid をいかに用いるか-

坪井 貴嗣 杏林大学医学部精神神経科学教室

ランチョンセミナー 2 3月13日(木) 11:50~12:40 第2会場(メインホールB)

共催 田辺三菱製薬株式会社 / ヤンセンファーマ株式会社
座長 水野 雅文 東京都立松沢病院

LS2 遅発性ジスキネジアの診断・原因・病態・治療

竹内 啓善 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

ランチョンセミナー 3 3月13日(木) 11:50~12:40 第3会場(大ホールB)

共催 大塚製薬株式会社メディカル・アフェアーズ部
座長 古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座

LS3 統合失調症に対する Measurement-Based Care (MBC) を考える

嶽北 佳輝 関西医科大学医学部精神神経科学講座

ランチョンセミナー 4 3月13日(木) 11:50~12:40 第4会場(大ホールA)

共催 エーザイ株式会社
座長 立森 久照 慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室

LS4 働く人の睡眠とウェルネスを考える

三村 将 慶應義塾大学医学部予防医療センター

ランチョンセミナー 5 3月14日(金) 12:20~13:10 第1会場(メインホールA)

共催 塩野義製薬株式会社
座長 池田 学 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

LS5 不眠症診療における新たな治療薬への期待と課題

高江洲 義和 琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座

ランチョンセミナー 6 3月14日(金) 12:20～13:10 第2会場(メインホールB)

VRを利用した社会認知トレーニングについて

共催 大塚製薬株式会社
 座長 中川 敦夫 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

LS6-1 社会認知機能(他者の意図や感情を理解する力)の意義

橋本 直樹 北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

LS6-2 就労移行支援事業所における新たな取り組み
～感情認知トレーニング VR(FACEDUO)の導入に触れて～

高橋 豊 あさかホスピタルグループ認定特定非営利活動法人アイ・キャン

ランチョンセミナー 7 3月14日(金) 12:20～13:10 第3会場(大ホールB)

共催 武田薬品工業株式会社
 座長 根本 隆洋 東邦大学医学部精神神経医学講座・社会実装精神医学講座

LS7 神経発達症とトラウマ

金 吉晴 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

ランチョンセミナー 8 3月14日(金) 12:20～13:10 第4会場(大ホールA)

共催 Meiji Seika ファルマ株式会社
 座長 長瀬 幸弘 医療法人社団東京愛成会高月病院

LS8 国民の睡眠健康目標に准じた精神疾患患者の睡眠治療の考え方

栗山 健一 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
 睡眠・覚醒障害研究部

イブニングセミナー 1 3月13日(木) 17:20～18:10 第2会場(メインホールB)

共催 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 医薬開発本部
 座長 川寄 弘詔 脳科学・精神医学総合研究所

ES1 とともにリカバリーをめざす

佐藤 創一郎 希望ヶ丘ホスピタル

イブニングセミナー 2 3月13日(木) 17:20～18:10 第3会場(大ホールB)

共催 第一三共株式会社
座長 坪井 貴嗣 杏林大学医学部

ES2 **メラトニンおよびオレキシン神経伝達調整を主軸に据えた不眠症診療
ーせん妄リスクとQOL維持の視点からー**

八田 耕太郎 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学